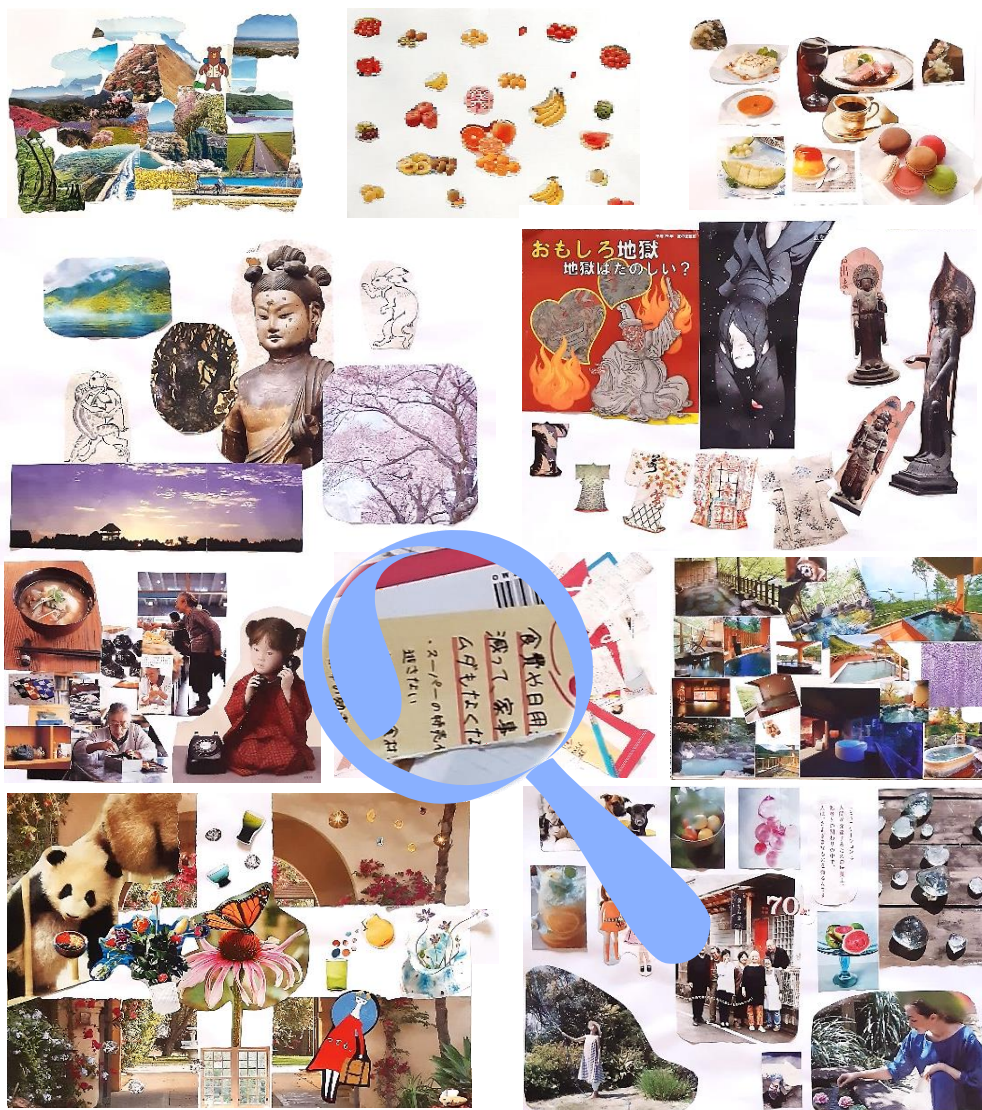


筑波のかえる



高次脳機能障害友の会・いばらき

2021年 ～～ 夏号 ～～ 第51号



高次脳機能障害友の会・いばらき

〒305-0817

茨城県つくば市研究学園4-13-8

TEL 080-5901-9979

E-mail kojinouibaraki@yahoo.co.jp

H.P <http://nosonsohoibaraki.sunnyday.jp/>



《51号内容一覧》

はじめに	1
役員会から	2
令和3年度総会を振り返って	3
県北の広場	4
県南の広場	6
神栖の広場	8
がんばってる人⑭（越川さん）	9
高次脳機能障害支援センターより	10
関係機関訪問	
水戸地区障害者就労・生活支援センター	12
のぞみ	13
お知らせ・編集後記	14

今回の表紙の写真は、5月に行われた県南集会でのコラージュ作品を集めたものです。回を重ねるごとに力作になっていくのがよくわかります。浅野こずえさんの作品はルーペで一部しか見えていないので下に載せました。



はじめに



雨露を弾く紫陽花の輝きがとても美しい季節となりました。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。昨年度の活動そして総会が無事に終わり、新しい年度を迎えることができました。これも会員の皆様、賛助会員、支援者の皆様のご協力のお陰と心より感謝申し上げます。

昨年度はコロナ禍により様々な活動が制限されてしまいましたが、そのような状況下でも「家族会交流室」は会場や日にちを調整しながら、感染予防にも対策を取りながら開催を続けてきました。社会との距離や他者とのコミュニケーションが分断されるなか、孤立や不安を感じている家族や当事者の方々に、ここに来れば安心して過ごすことができる、会員も、会員でない人も悩みや他愛もない話で心を和ませてほしい、そのような思いからでした。

ある日、家族会交流室に一組のご夫婦が来室されました。ご主人は脳溢血で倒れ今年の3月に退院されたばかりで、部屋に入る時からイライラした様子で奥さんもその様子に困り顔でした。お話を聞くとご主人は、身体に麻痺もなく言葉もスムーズに発せられることからご自分の障がいのへ違和感はありません。一刻も早く以前の生活に戻り一人で自由に行動がしたいのですが、医師からは見守りが必要と告げられていたので自由に散歩することも出来ません。そのことにとってもフラストレーションを感じている様子でした。病院では倒れて入院した時からリモート面会だったことから、奥さんは回復の過程や病院内での生活の様子を知りません。ですから、回復の度合いをつかめないことから散歩をするのにも道に迷ったりはしないかなど不安な思いが先に立ち、一人での行動を制限してしまうそうです。まだまだ病気になってから日も浅く回復には時間がかかること、実際に社会生活をしてみて経験を重ねないとご本人の自覚も出来てこないでしょう。焦らず療法士やケアマネジャーと相談をしながらご主人の気持ちも受けとめて、少しずつ慣らし運転を試みることをお勧めしました。

昨年から人々の生活は大きく一変してしまい、施設や病院で離れて暮らす家族に逢いに行くということがとても難しくなっていました。逢いに行くということは自分自身も癒されてホッとしたり、嬉しい気分を感じるのではないのでしょうか。訪問は自分自身にとってもかけがえのない時間なのです。ところが、感染リスクを抑えるためにはやむを得ない措置とはいえ、家族としての大切な時間を奪われたことは私達が自覚している以上に大きなダメージを与えているのかも知れません。

先日読んだ記事に、このような状況の時の心理負担を和らげる方法として2つのことが載っていました。一つは相手の様子をありありと思い浮かべること。情景を思い描き、対話することだそうです。そしてもう一つが祈ること。「今日も一日気持ちよく過ごせますように」「痛みや寂しさがなくなりますように」相手を想い祈ることによって自分自身の気持ちも落ち着くことができるのだそうです。

滝沢静江

役員会から

令和3年度 高次脳機能障害友の会・いばらき 事業予定

月	項目	会 員	役 員 会	そ の 他
6月	17日	家族会交流室	22日 役員会	15日 会報誌発行
	20日	県北集会		
	23日	神栖集会		
7月	9日	家族会交流室		
	16日	県北家族の集い		
	18日	当事者会		
	28日	神栖集会		
	31日	県南集会		
8月	13日	家族会交流室	未定 役員会	
	25日	神栖集会		
	未定	県北集会		
9月	10日	家族会交流室		15日 会報誌発行 未定 リハ講習会
	17日	県北家族の集い		
	22日	神栖集会		

役 員 会 報 告

令和3年4月20日

議事(1) 令和3年度総会について

当事者活動について

総会役割分担について

総会後の行事

(2) 作業療法士会との交流会について

(3) その他



家 族 会 交 流 室 か ら の 報 告

令和3年 3月 12日

相談者なし 会員8名

支援センター⇒小原センター長・野口支援 CN

令和3年 4月 9日

相談者なし 会員5名

県障害福祉課⇒渡邊輝夫副参事・高野智広主事

就労支援施設オハナ代表 土井さま

支援センター⇒高橋副センター長・山中支援 CN

令和3年 5月 14日

相談者1組 会員5名

支援センター⇒高松支援 CN

令和3年度総会を振り返って

日時	令和3年5月30日(日)	午後1時～2時30分
会場	ふれあいの里石岡ひまわりの館	介護研修室
日程	13:00	総会・当事者活動
	14:00	藤井ケイチさん トークとミニコンサート
	14:30	終了・片付け

総会・当事者活動

昨年の総会はコロナの為中止となりましたが、今年は感染対策をしながらの開会となりました。出席者は22名と、例年に比べやや少なめでしたが、議事もスムーズに進み、終始和やかな中での総会となりました。3月に高次脳機能障害者支援センターを定年退職されて当会の顧問と引き受けてくださった小原先生もお忙しい合間を縫って急きょ駆けつけてくださいました。



総会との同時進行で、レストランでは当事者活動がありました。8名の当事者の方々が参加し、こちらも和気あいあいとした雰囲気の中で楽しい時間を過ごしました。内容は何時ものごとくのトランプの「ババ抜き」が中心でしたが、今年は「かるた」も登場しました。毎年ボランティアで支援に入ってくれる加藤先生が上手にリードしてくださり、楽しい時間はあっという間に過ぎました。

藤井ケイチさんのトークとミニコンサート

まず藤井さんが、ご自身の体験談を話されました。数年前の総会でもお話しして頂きましたが、その時はかなり緊張されていました。しかし今回はご自分の身に起こったことを、噛み締めるように一言一言確認しながら話されているようでした。

その後、ケイチさんのオリジナル曲を2曲、ご自分のギター伴奏で歌われました。最後に「アンコール」で、ケイチさんの代表曲「星屑の観覧車」を歌われました。透き通るような歌声と、心に沁みる歌詞とに思わず涙をぬぐう姿も見られました。



県北の広場

令和3年度がスタートしました。

今年度も 各6回の「県北集会」「家族の集い」を計画しています。

昨年度より、より多く集会が開催できることを願うところです。開催にあたっては、感染症対策を充分にして、共によい時間を過ごしたいと思います。

すでに第1回県北集会、第1回家族の集いを開催しました。報告を掲載しました。また、支援して下さっている 柏さん、篠原さんよりメッセージを寄せていただきました。ご覧下さい。

令和3年度 第1回県北集会 令和3年4月20日(日)

場 所 : 水戸市福祉ボランティア会館 小研修室

内 容 : 使用済み切手の整理作業

参加者 : 8名(当事者1名、家族4名、支援者3名)

今回の集会では、昨年度できなかった「使用済み切手の整理作業」を行いました。

雪だるま君には、たくさんの切手が集まっていたのですが、すべてきれいに整えることができました。おわりの会では、支援者の柏さんリードで体操。堅くなった身体をほぐしました。

1時間の短い時間でしたが、楽しい時間を過ごしました。



感想カードから

切手の時はいつも思いますが、
古い切手を見た時、懐かしかったり
驚いたり、わくわくします。

自分にも役立つ事があり、居場所があると
感じさせてくれているのかと思います。

お役に立っているのかと思うと
嬉しいです。

体操で身体がほぐれて良かったです。

毎年多くの使用済み切手が集まって
いるのは、皆の心がけですね。

今日のストレッチ、とても効きました。

久しぶりにお会いでき
ほっとするひとときを過ごしました。

寄付してきました

4月の集会で整理し
た切手は4月28日
水戸市社会福祉協
議会に寄付して来ま
した。
これからもできる
ことで社会貢献して
いきましょう！！



第1回家族の集い 報告

5月21日(金)水戸市社会福祉ボラン
ティア会館 小会議室で行いました。
〈参加者8名(家族3名、支援者5名)〉
県高次脳機能障害支援センターの
高橋由紀さん、野口沙織さんのご参加
もあり、短い時間でしたが、有意義な時
間を過ごしました。

●支援者紹介 支援者のお二人にメッセージをいただきました

当事者、ご家族、支援者のつながりを大切に、共に学び、意見を交わす事で支援の
輪を広げていきたいと思えます。

交流により、私自身が元気になる場として、参加させていただきます。

社会福祉法人 翠清福祉会 ケアハウスみと 篠原 恵味

ご縁を頂き県北集會に参加させていただくようになってから、1年半になります。
集會ではマスクをしていても皆様の素敵な笑顔が伝わっています。ギターの生演奏「一
人の手」とっても素敵で楽しみです。コロナ禍ではありますが、コロナ禍だからこそ！
大切な場所だと感じています。今後ともよろしくお願ひいたします。

社会福祉法人 翠清福祉会 南部第一高齢者支援センター 柏 和子

これからもよろしくお願ひします。

県南の広場

令和3年度 第一回県南集会在5月4日に行われました。ゴールデンウィーク中でもあり、さらに公の場所では、あちらこちらコロナの拡大防止のため使用できないところが多く、今回は、つくばライフサポートセンター「みどりの」の1階ホールを初めてお借りして開催しました。

ここ数年コラージュ教室の希望は大勢の方から寄せられていたのですが、講師の笹島先生のお仕事の都合がつかず、やっと開催できました。

参加者は、当事者4名、家族6名そして、STの加藤先生が今回も支援に参加してくださいました。

コラージュ療法と言うとちょっと難しそうですが、雑誌等の好きな部分を好きなように手で破り（もちろんハサミでも結構ですが）好きなように貼り付けていくだけなのです。みなさん子供のように夢中で作業をし、終わると自己紹介がてら作品の説明をします。そのあと笹島先生が感想を言ってくださいます。これが実に心地よい！！どんな作品も「ここが素晴らしい！！」と褒めてくださいます。大人になると、なかなか人から褒められるという機会はありませんが、間違いなく一人一人の個性を見出し、ほめて下さるのです。

とてもリラックスし、楽しい満足感で満たされます。こういう時間は、当事者のみならず、家族にとっても必要なのではないのでしょうか。

初めて参加されたKさんは、初めやり方がわからないようでしたが、先生と楽しそうに話をしながら、すぐに作業に入れたようでした。大好きなお料理の本からおいしそうな写真を集め、結婚式のコース料理の作品を作り、とても楽しかったと仰っていました。

次回はまたいつになるかわかりませんが、皆さん是非体験していただければと思っています。

今回、久しぶりに御所脇充さんのお姉さま佐々木彩さんが参加して下さり、感想をお寄せ下さいましたのでお載せいたします。



《《 コラージュに参加して 》》

先日、数年ぶりにコラージュ教室に参加しました。久しぶりのコラージュでしたが、私の作り方は以前と変わらず、雑誌を開いて目に留まったページをどんどん破いて集め、それを好きな形に切って好きなように貼り付ける。どの作業も、頭よりも感覚をフル回転させている感じが心地よく、あっという間に時間が過ぎてしまいます。作り終えた自分の作品を見ると、ここにこういうのを貼り付けたかったな、ちょっと貼りすぎたかなと思うこともありますが、それでも作り終えた後は頭がスッキリとしています。他の参加者の方々の作品を見るのも楽しみで自分には思いつかない発想がもらえます。そして、何より私はこのコラージュ教室の雰囲気が大好きです。今回は久々の参加となりましたが、皆さんと久しぶりにお会いして、そうだ、私はここが好きだったんだ！と思い出しました。

ここ最近仕事が立て込み常に戦闘モードだった私は、ピリピリした状態で過ごすことが多々ありました。コラージュ教室から日は経ちましたが仕事に疲れたとき、コラージュ教室のやわらかな雰囲気を思い出すことがあります。あそこに行きたいな、あの温かな雰囲気の人間でありたいなと思わせてもらえる場所がひとつ増えたことが幸せです。そんな場所を作って下さった家族会のみなさまや笹島先生に感謝しています。

今回は、母と参加しましたが、母や弟の、家とは違った顔を見られたり、家族間ではなかなか話さないような言葉を聞けるのもコラージュ教室の面白さですね。次回も楽しみにしています。ありがとうございました。

佐々木 彩



神栖の広場

「腑に落ちた言葉」(本人を守る)

毎月の神栖集會に支援センターからの参加も定着し、以前の少人数の「近況報告・悩み相談」から「話し合い」に幅が広がり深みが増してきています。

中でも“器質性の後遺症の対応法”の問いに暴力・暴言・多動が見られたときは

- ・一過性なので押さえつけも時には必要
- ・場所を変えて一人にする(クールダウンするのを待つ)
- ・信頼するスタッフ、家族と一緒にする

等の話の中で「本人たちが加害者になるのを防ぐ、本人を守る」事が大切。これを聞いて今までモヤモヤしていたものがストーンと落ちました。見えない障害を理解してほしいと啓蒙活動をしていて今更と思うでしょうが、主役は当事者なのにはき違えてしまう時があります。

当時は異常な行動に対して、刺さるような、憐れむような視線に神経をすり減らし、家族も残された障害の動きを理解できないままとにかく救われた命を大切に守り、自分を傷付けず周りにも不安な思いを掛けないで一日を過ごすのに必死でした。

ところが事故後25年が過ぎようとしている今では、様々な問題行動等の記憶が薄くなってきているのです。親は老い、姉兄に託す時が近づいている今、息子が望む快適に暮らせる体制づくりを話し合っただけでいいと思っています。

それには個人の問題と捉えず住まいの福祉、家族会、支援センターへのネットワークの利用を覚えてもらい、家族だからと抱え込まないで、適した支援、アドバイスを受けて共に豊かに暮らして欲しいと思っています。

だから家族会の存在はとても大きくありがたいのです。(御所脇)

《神栖集會の報告》

3月24日(水)	支援センター	山中CN	野口CN	
	サポートセンター	いきいき	2名	会員4名
4月28日(水)	支援センター	高橋副センター長	高松CN	
	サポートセンター	いきいき	1名	会員2名
5月26日(水)	支援センター	高橋副センター長	滝沢家族会長	
	サポートセンター	いきいき	1名	会員3名



子どものころからの夢 “宇宙”

つくば市竹園 越川 尚清さん

東京都でお生まれになった越川さんは小さいころから宇宙に関心がありました。特に毛利衛さんの宇宙飛行士姿に感銘を受け、自分も宇宙に関わりのある仕事に就きたいという夢をもつようになりました。そして、その夢を実現するために JAXA で仕事をしました。



◇2013年に「もやもや病」を発症し、2016年に左側頭部の手術をしました。しかし、2016年6月に脳梗塞が発症して7月に再手術となりました。病後は入院・通院でリハビリを行ったり、自立支援医療を受けて会話の回復に努めました。現在は3か月に1回のリハビリをし、週5回のラジオ英語講座を再勉強しています。

◇発症前の JAXA では、スペースシャトルの実験や国際宇宙ステーション微小重力実験等に関わっていました。又、超高速インターネット衛星「きずな」が震災等被災地域への通信回線をつなぐ研究開発の仕事もしていました。しかし、病気のため同職への復職は困難となり2019年2月に退職となりました。現在は「研究開発」ではなく、「事務支援」として JAXA での仕事を続けています。

◇現在は新型コロナウイルス対処法のため週5日間、自宅でテレワークをしています。パソコンとディスプレイ2台を使い、メールの調整や Teams 会議等に利用しています。ただ、携帯電話はやはり苦手です。



◇1 昨年「失語症者向け意思疎通支援者養成講座」に参加しました。色々な方に丁寧に話しかけていただき、気軽に会話が弾みました。クイズやゲームをして楽しかったです。

越川さんの取材は、テレワークでのお仕事の昼休み中にさせていただきました。丁寧な話し方が、とても誠実なお人柄を感じさせました。コロナが収束したら、大好きだった海外旅行に、又奥様と一緒にいきたいそうです。今迄の旅行で印象に残っているのは、アイスランドとブラジルだそうです。そして、また何時の日か、研究開発の仕事をしてみたいと思っておられるとのことでした。

※このページは、越川さんご自身が準備された資料も参考に作成しました。

新任職員の紹介

山川百合子 センター長



茨城県立医療大学医科学センター 教授
茨城県立医療大学附属病院 精神科

令和3（2021）年4月1日より茨城県高次脳機能障害支援センター長となりました山川百合子です。ここでは過去と未来の方向からお話ししようと思います。

過去を振り返ると私と高次脳機能障害の支援との出会いは、茨城県立医療大学に着任した平成16（2004）年頃からでした。それまでも数は少ないのですが、精神科の病院で頭部外傷や脳炎の患者さんを担当していたこともありましたが、リハビリ病院でのリエゾン（患者さんを主治医とは別に心の問題の相談を受ける）という立場からの対応は初めてのことでした。しかも茨城県立医療大学附属病院では精神科医がたった私一人、高次脳機能障害の専門家でもない自分に何ができるのかもわからないままでした。その後はずっと続く真っ暗闇のトンネルの中で迷走を繰り返すのかと思いましたが、脳損傷友の会いばらきの方々との出会いのお陰で、生活で困っていることを具体的に把握でき、臨床現場での精神科医の役割について自分なりに少しずつ理解できるようになりました。高次脳機能障害の支援の中では、精神科医が単に心の問題や薬物療法をすることだけでなく、精神保健福祉手帳、年金診断書、また成年後見制度の診断書や鑑定書などの作成、つまりこれまで日常的な臨床で関わってきた業務である、社会制度の利用について大きな役割があることに気が付きました。そうは言っても、最初にご家族の方の中にはリハビリ病院の退院が近づくると急に現れる精神科医に驚かれた方も多いかと思います。そしてそれらの制度を使い福祉サービスを利用することで、当事者も家族もこれからの生活に次第に前向きになっていくことが多いこともわかりました。このようなことは「制度の利用による精神療法」と言ってもいいかもしれませんが、よく考えるとどの障害にも言えることだとは思いますが、私にとっては、高次脳機能障害の支援に関わり、薬よりも何よりもこういった社会制度の重要性を痛感したことはありませんでした。



そして未来について考えてみると、これまで私は茨城県の高次脳機能障害の支援の協議会の座長をやっており、様々な分野からのご意見をお聴きしつつ、タイムキーパー的な役割をしていました。これからは茨城県高次脳機能障害支援センター側に座り、各委員の先生からのご意見をお聴きすることになります。たいして変わらない感じがしますが、同じ景色でも、見る位置により違うと言いますので、今年度からは高次脳機能障害の支援について新たな気付きや発見があるかもしれません。それを楽しみにしながら、これからの高次脳機能障害支援センターの仕事を進めていきたいと思っています。

どうぞよろしくお願ひいたします。

高橋 由紀 副センター長



今年度4月から高次脳機能障害支援センターに配属されました、高橋と申します。今まで5年間、茨城県立茨城学園という児童自立支援施設で子供たちの支援に従事してまいりました。

平成28年3月まで、県立リハビリテーションセンターで3年間、高次脳機能障害支援コーディネーターをやらせていただきました。当時は拠点在今后どこに設置するかが重要課題で、家族会の方々と要望書を県に提出したことを覚えております。現在の支援センターがここまで大きく成長を遂げたことに驚きと感慨深い思いがこみ上げ、職員はじめ関係者の方々のご苦勞が偲ばれました。

私自身、大變力不足を感じており、自分に何ができるのか、何をしなければいけないのか自問自答の毎日であります。ただ、今まで頑張ってもらった方々の苦勞を無駄にしないよう、支援センターがさらに高次脳機能障害をもつ方々のお役に立てるよう尽力していきたいと思っております。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

センターからのお知らせ

令和3年度になり、高次脳機能障害支援センターも新たな人員体制になりました。

コロナ禍の影響で、昨年度同様集合形式の研修会や各種会議は、オンライン会議や YouTube 配信など新しい形式での提供をさせていただくかと思えます。また当センターのホームページや Twitter でもいろいろな情報を引き続き発信していきます。

昨年度「茨城県高次脳機能障害支援マップ」を作成させていただきました。今年度も引き続きより多くの事業所からのご協力をいただき、支援の充実を目指していきます。

今後の予定としては、各地区で高次脳機能障害支援機関・施設連絡会を Web 会議にて開催予定となっております。

コロナ禍の中、なかなか先が見えず、不安な日々をお過ごしのことと思えます。これから梅雨の時期も迎えますので、お体をご自愛して下さい。

関係機関訪問 ⑥

水戸地区障害者就業・生活支援センター

住所 水戸市赤塚 1-1 ミオスビル 2 階

電話 029-309-6630

※所長の塚本孝明さんと副所長の鈴木重史さんにお話を伺いました。



◇ミオスビルは JR 赤塚駅北口から徒歩 1 分のところにあり、「水戸市社会福祉協議会」を中心に、様々なボランティアの活動の場として使用されています。当会でも県北地区の皆さんが集会等を行っている場所でもあります。

◎センターの主な事業内容としては、職場への「定着支援」が中心になります。現在は、812 名の方々が登録されています。障害者雇用を希望されている方々の相談が主ですが、雇用する側の事業所の相談にも乗ります。就業・生活支援センターの職員は、就業支援に関する担当が 6 名、就業している方の生活支援に関する担当が 3 名です。所長を入れて計 10 名で活動をしています。

◎最近「ナチュラルサポート」が叫ばれ、事業所側でも様々な支援をおこなうようになってきましたが、まだまだ悩みを抱えながら働く方や、就労できずにいる方も多いため、1 年目は月 1 回程度、事業所を訪問しての相談にあたるよう努めています。2 年目以降は、ケースに応じての対応をしています。

◎センター内には、水戸市から委託を受けている「障害者生活支援センター」が設けられています。障害のある方が日常生活を送る上で必要な福祉サービス制度の説明や関係機関の紹介、計画相談等が主な活動になります。

◎在職者交流活動「寺子屋」を年に数回開催し、就労生活が長く続けられるように、学習会や社会活動を通して、互いの交流を深めています。(今年度も、新型コロナ渦のため、規模を縮小して感染対策に留意しながら行っていく予定です。)

所長さんと副所長さんお揃いで、取材に協力してくださいました。現在はコロナ感染を避けるために、どうしても活動が制限されてしまうそうです。定着支援が必要でも、なかなかサポートに行くのも難しく、雇用するが側の感染対策にも沿いながら、電話連絡で対応したりしていたそうです。又、就業先として、ホテルや旅館などサービス業を希望しても、打撃を受けている事業所が多いので、求職者も方向転換をせざるを得ないそうです。

また、支援をしていく上では、医療面や行動面などでどのような配慮が必要なのか、他の機関との連携が大切だと感じておられるそうです。特に、高次脳機能障害をお持ちの方々には、是非、そのような対応をしていただきたいと思いながら取材を終えました。

関係機関訪問 ⑦

水戸市社会福祉協議会 身体障害者就労支援施設「のぞみ」

住所 水戸市河和田町123-1

電話 029-229-0309

※施設長の井上桂子さんに施設を案内していただきながら、お話を伺いました。



◇門を入ると広い芝生を囲むように、大きな平屋の建物が4棟ありました。突き当りの建物が「のぞみ」でした。建物の中は廊下の幅が広く、ゆったりとした感じがしました。この「のぞみ」は、身体的理由によって一般に雇用されることが困難な方が、整備された環境の下で必要な訓練を受けながら、職業を得て自活することを目的とした施設です。

◎現在は36名の方が働いています。(就労継続支援B型事業)
高次脳機能障害の方も7名います。作業の内容としては、印刷業(5名)縫製業(4名)軽作業(27名)があります。軽作業には下請け、内職、ダイレクトメール折り、封入、あて名書きなどを行っています。

◎縫製業では国産そば殻を使った全そば枕やバッグ、マスク、巾着などを手作りしています。商品は県庁や市内の様々な施設などで売られています。又、印刷業としては、大きな印刷機や紙折り機を備え、名刺、封筒、書籍等を作っています。これらの作業には高度な技術が必要なので、それぞれ熟練した方々が取り組んでいました。



明るく広い作業室で作業をしている様子を見させていただきました。静かな音楽が流れる中で、黙々と丁寧な作業が続けられていました。案内をしてくださる井上さんは、作業中の皆さんに温かく声掛けをされていました。すべての方のお名前と特徴をしっかりと把握されておられることにびっくりしました。

昼食は広い食堂で、栄養管理がしっかりとされた献立の温かい食事をいただきます。そして食後は広い芝生の周りをそれぞれのペースでウォーキングをする姿が印象に残りました。

お知らせ

《家族会交流室について》

コロナの感染拡大により、昨年 8 月の交流室から開催場所を変更しておりますのでお知らせします。

開催日時 従来通り毎月第2金曜日(11:00~14:00)
開催場所 **土浦市ふれあいセンターながみね**
住所 土浦市中村西根 2078-1
電話 029-830-5600



※尚、コロナ感染拡大の状況により中止とする場合もあります。参加希望の方は、予め予約をお願いします。(予約の電話番号は 080-5901-9979 です。)

※当会のホームページにも掲載してありますので、そちらもご覧ください。

お悔み

当事者会員の菊池常彦様が令和3年5月6日に逝去されましたので、ここにご報告いたします。謹んでご冥福をお祈りいたします。

《広報誌がフルカラーになりました》

※ご覧頂きましたように、今号から広報誌が一新されました。今まで印刷を格安で引き受けて下さっていた、つくば市の市民活動センターが印刷事業を撤退することになった為の変更です。色々検討しましたが、大手インターネット注文の印刷会社をお願いすることにしました。これからは、どうぞフルカラーでお楽しみください。

《編集後記》

広報誌の担当になって、早5年が過ぎようとしています。右も左もわからない状態で前の担当の方から引継ぎ、「自由にやってくださいね。」という温かい言葉に安心しながら手探りで回を重ねてきました。パソコンを使用して広報誌を作成するのは、なかなか大変でした。それでも少しずつですがイラストや写真を挿入したり、文章を整えたりと、出来るようになってきました。また、家でじっとしているのが苦手な私には、取材で色々な方々にお会いするのも、とても楽しい活動の一つです。広報を担当している間に、「役得」と思って、出来るだけたくさんの会員の方にお会いしたいと思っています。本当に幸せ者です。(石崎)

